

一六年のブランクを経て 復職し、思うこと

株式会社ジルコ
設計第一部

● 富澤 とみざわ

真未 まみ



設計コンサルタントに進んだ経緯と初期の業務

私は群馬県庁のすぐ近くで生まれ、農業とは無縁で育ちました。ただ、父が土木技師であり、幼い頃から車に乗ると「この道路はお父さんが設計したんだよ」という話を聞いたり、三角スケールや青焼き図面が家にあったりと、土木は身近な存在でした。小学四年のとき社会科見学で訪れたコンクリートダムの迫りに圧倒され、「こんな巨大なものを人間がつくれるんだ」という衝撃が土木を目指したきっかけです。大学受験の際、農学部でも土木を学べると知ったこと、人が生きる上で必要不可欠な食料を生産する農業用ダムに興味を持ったことから、農業土木の道に進みました。

大学ではダムに関する研究室で学び、子供の頃から漠然と持っていた「地図に残る仕事をしたい」「社会貢献したい」という思いから、卒業後は日本農業土木コンサルタンツ（現ジルコ）に就職しました。

最初の三年間は、ダムの堤体や基礎、小水力発電施設の設計、試験湛水計画等に携わった後、出向先の日本農業土木総合研究所（現日本水士総合研究所）で主に農業用ダム技術検討委員会の運営に三年間従事しました。出向から戻った



社内にて（入社2年目）

後の三年間は、揚水機場、排水機場、パイプライン、頭首工と、様々な工種の実施設計に携わりました。分からないことばかりで日々勉強でしたが、その経験が少なからず今の私を支えています。

退職、そして復職

結婚を機に退職し、夫の自営業を手伝っていましたが、四年前、様々な事情で廃業することになり、とにかく生活のため地元測量設計会社に就職しました。もう二度と技術の世界に戻ることはないと思っていたのに、三年ぶりに見た図面や報告書にワクワクし、やっぱり設計が好きなんだなあと認識した次第です。

そして二年前、ジルコから復職を提案されました。通勤に片道二時間かかること、多感な年頃の息子がいること等から不可能と思われましたが、新型コロナウイルス感染症対策として定着したテレワーク勤務と、数年前に導入されたフレックスタイム制をフル活用することで復職が叶いました。「多様な人がいて多様な働き方があって然るべき」との考えのもと、会社としては既存制度の枠を超えた初めての試みです。現在は週二日程出社、残りはテレワーク勤務と、出社と在宅のバランスを上手にとりながら、自分の時間も家族との時間も大切にしています。そして、農業土木の設計はやはり面白く、相変わらず家族のように暖かい社員に囲まれ、充実した毎日を送っています。

一六年ぶりに復職して感じること

一点目、業務について。退職当時、今後は更新事業が増えると言われていましたが、今やストックマネジメントが主流となり、新規事業は激減しました。また、農林水産省発注業務はプロポーザル方式や総合評価落札方式となり、提案書作成は私にとって業務以上の難作業です。幅広く深い専門知識、課題を見出し解決する能力、読み手に的確に伝えアピールする技術等が必要であり、産みの苦しみと自分の未熟さに押し潰されそうに



現地調査（復職1年目）

なりながら取り組んでいます。

二点目、女性のキャリア形成について。二〇年近く前は業界内を見渡しても女性技術者は5%未満だったと思いますが、今は発注者側も女性が増え、弊社の社員も約四分の一が女性技術者です。私は技術者としてこれから、というときに退職し、想像もしなかった形で復職しました。今は自分の技術力のなさに日々落ち込み、記憶力と体力の低下に抗い、過去を振り返っても仕方ないと思いつつも「あのまま続けていたら」と思うこともしばしばあります。

設計の仕事をする上で「女性だから」男性と違うことは特にありません。ただ唯一あるのは、出産・育児という大きなライフイベントだと思います。結婚・出産を経ても勤続している女性技術者は業界内にも多数いらっしやいます。その方々のバイタリティーや周囲の環境は大変素晴らしいと思いますが、私自身が出産・育児を経験し、コンサルタントとして業務遂行しながらそれをできたか？と問われれば、即答で「NO」です。子供がある程度成長して手がかからなくなったこと、夫が自宅にいるため子供の見守りは心配ないことで、今私は就業できています。女性技術者が自分のライフステージを考えたとき、子供やパートナーによって左右されること、妊娠・出産・育児は喜びはあれど心身ともに負荷がかかることを考慮した上で、後悔のない選択をしてほしいと思います。当然ながら組織としての対応は必要ですし、男性にも同じ熱量で考えていただきたい課題です。

三点目、私自身の変化。一三年携わった自営業で、サービス業の何たるかや、経営・雇用の難しさを学びました。これはコンサルタントとして、組織の一人として、ブランドが無駄にはならないと唯一思えることです。また子育てをしてい

る中で、安心安全な食料の安定供給、そしてそれを支える農業について、以前と比べ格段に関心が高くなりました。これも仕事に対するモチベーションの一つになっていきます。

目下の悩みは、地味ですが、名字問題。私の現姓は山元ですが、仕事上は旧姓の富澤ですが、乗っています。ただ、会社との雇用契約や資格登録で本名を用いるため、AGRISSの登録や業務計画書は現姓になります。名刺は「富澤（山元）」としているので、顧客に対して中途半端な状態になっており、未だ解決策が見つかりません。

紆余曲折を経て「社会貢献したい」という自分の原点に再び立ち、様々な葛藤はありますが、人生の折り返しにあっても常にワクワクした気持ちを持ち続けながら仕事に取り組み、いつか息子に「この〇〇はお母さんが設計したんだよ」と自慢したいと思います。

富澤さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、女性技術者として施工管理業務に従事している私が、仕事を進めていくうえで日頃感じていることや、建設現場のリアルな情報についてお話できればと思います。楽しみにしてください。

東洋・西松・日下部特定建設工事共同企業体
ポートアイランド（第二期）地区コンテナ
南ふ頭再整備工事

もりた
森田 ばるな
椋菜



息子の田植え初体験（ジルコ農業体験と支援の会）